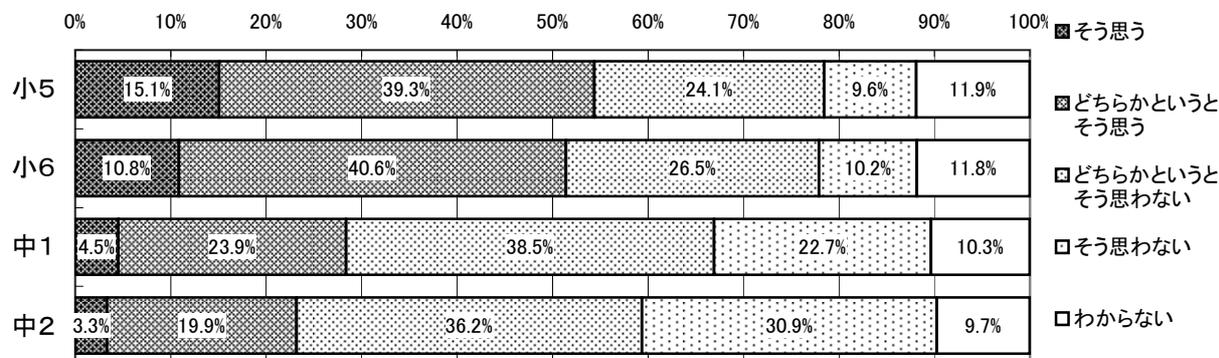


### (3) 各設問の結果・分析の概要

#### 1 勉強は好きですか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
① そう思う	15.1%	10.8%	4.5%	3.3%
② どちらかというと思う	39.3%	40.6%	23.9%	19.9%
③ どちらかというと思わない	24.1%	26.5%	38.5%	36.2%
④ そう思わない	9.6%	10.2%	22.7%	30.9%
⑤ わからない	11.9%	11.8%	10.3%	9.7%



#### ◇「勉強好き」の割合は昨年度より増加傾向である。

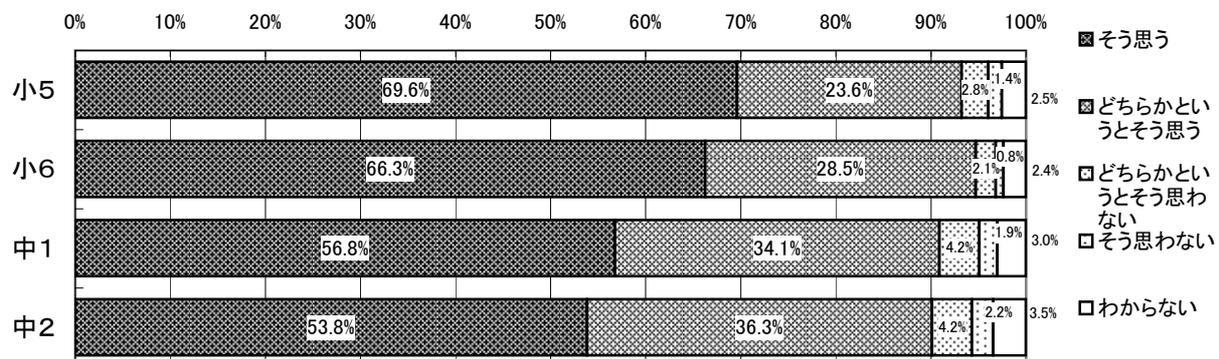
「そう思う」「どちらかというと思う」を含めると、勉強が好きな児童(小5・小6)は5割程度、生徒(中1・中2)は2～3割程度である。昨年度と比較して、小5は同程度の割合であるが、小6、中1、中2の3学年は増加している。

児童生徒の1～3割程度が「そう思わない」と答えているが、昨年度に比べて、すべての学年でその割合は減少している。特に中学生において「そう思わない」と答えた生徒の割合が2%程度減少している。

児童生徒の記述から、勉強が好き・好きではない理由は、「勉強がわかる・できる」「教科の好き・嫌い」に影響されることがわかる。今後も、一人一人に基礎的・基本的な内容が確実に身に付くよう、きめ細かな指導を一層充実させることが必要である。

#### 2 勉強は大切だと思いますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
① そう思う	69.6%	66.3%	56.8%	53.8%
② どちらかというと思う	23.6%	28.5%	34.1%	36.3%
③ どちらかというと思わない	2.8%	2.1%	4.2%	4.2%
④ そう思わない	1.4%	0.8%	1.9%	2.2%
⑤ わからない	2.5%	2.4%	3.0%	3.5%



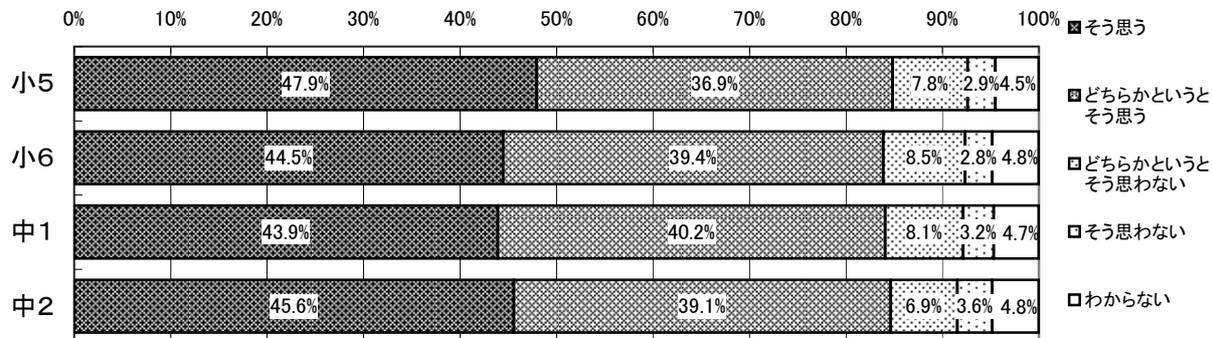
#### ◇9割以上の児童生徒が「勉強は大切である」という意識をもっている。

「そう思う」「どちらかというと思う」を含めると、4学年ともに児童生徒の9割以上が勉強は大切であると答えている。また、昨年度と比べて、「そう思わない」「わからない」ととらえる児童生徒の割合が、4学年ともに減少している。

この結果は、勉強が大切であることを実感できるような指導の成果があらわれているものである。今後も、「勉強の意義」を自分の生き方や進路等とのかかわりから深く見つめることができるように指導するとともに、実生活と関連付けた学習内容の工夫や指導をより一層充実させることが必要である。

### 3 努力して勉強しなければいけないと思いますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
① そう思う	47.9%	44.5%	43.9%	45.6%
② どちらかというと思う	36.9%	39.4%	40.2%	39.1%
③ どちらかというと思わない	7.8%	8.5%	8.1%	6.9%
④ そう思わない	2.9%	2.8%	3.2%	3.6%
⑤ わからない	4.5%	4.8%	4.7%	4.8%



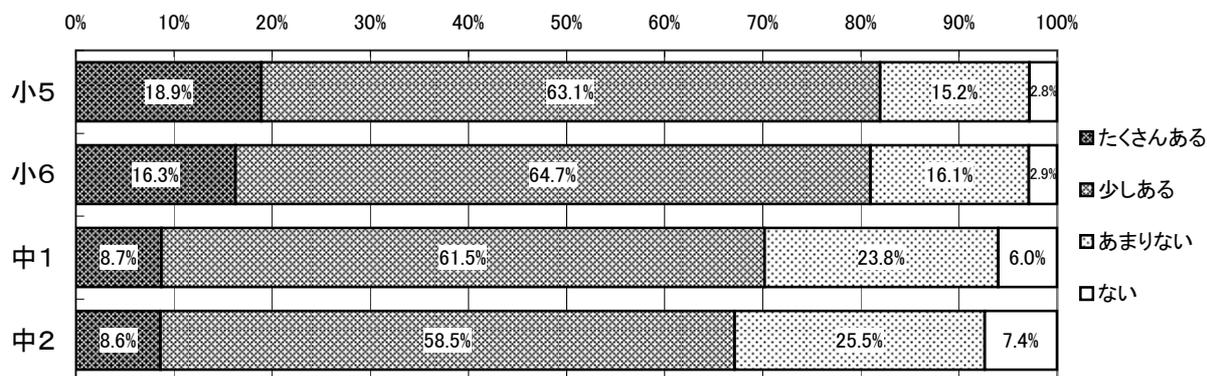
#### ◇8割以上の児童生徒が「努力して勉強しなければいけない」と思っている。

「そう思う」「どちらかというと思う」と答える児童生徒の割合は、どの学年も8割以上である。昨年度と比べて、特に、「そう思う」と答える児童生徒の割合が増加してきており、「努力して勉強しなければいけない」という意識が高まっている。また、「そう思わない」と答える児童生徒の割合も減少している。

今後も、一人一人の児童生徒が学ぶ目的や意義をより明確にもち、自ら学習を進めていくことについての指導を一層充実することが必要である。

### 4 自分から進んで勉強しようとする気持ち(意欲)がありますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
① たくさんある	18.9%	16.3%	8.7%	8.6%
② 少しある	63.1%	64.7%	61.5%	58.5%
③ あまりない	15.2%	16.1%	23.8%	25.5%
④ ない	2.8%	2.9%	6.0%	7.4%



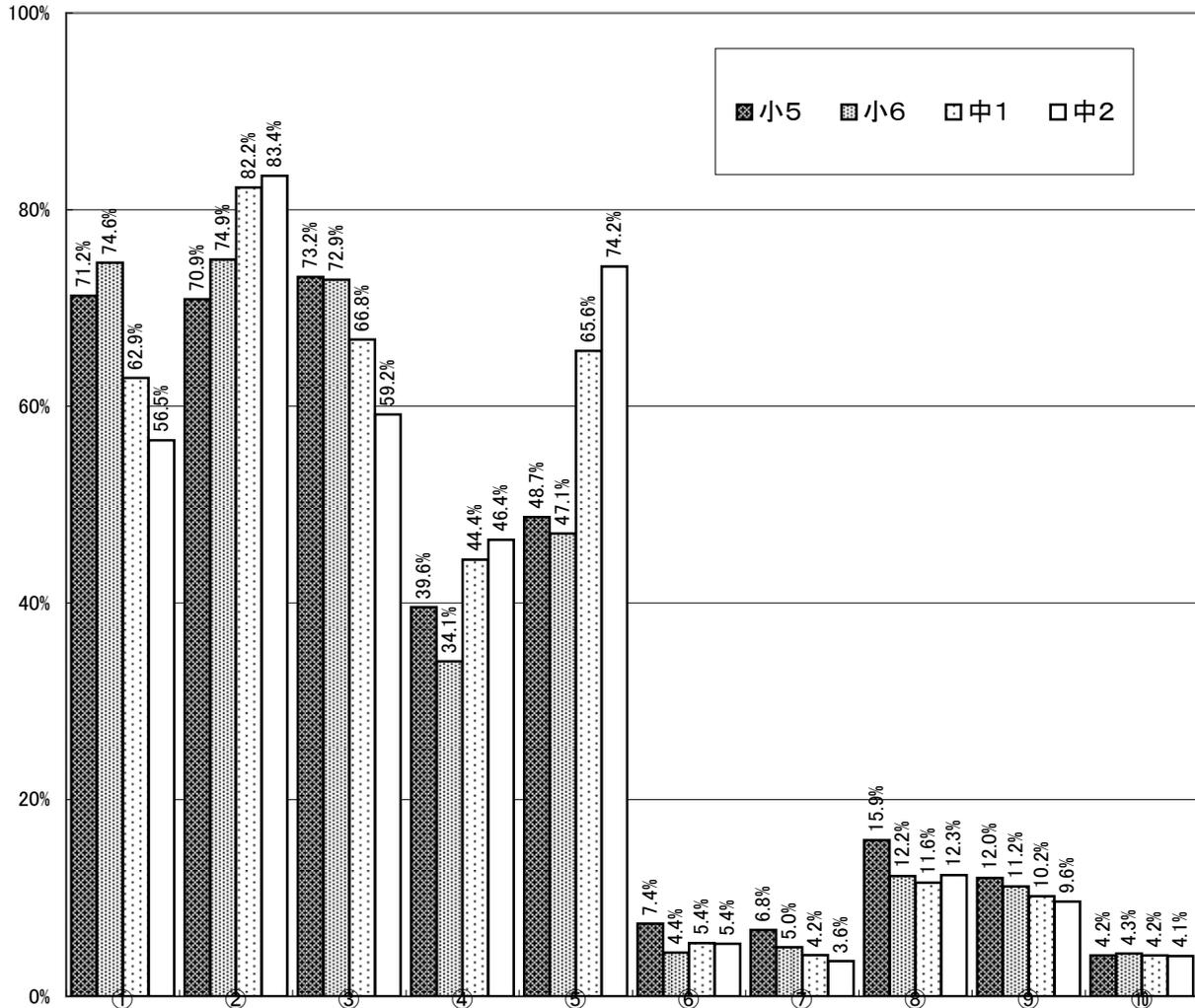
#### ◇8割の児童、7割の生徒が学ぶ意欲をもっている。学ぶ意欲のある割合は、昨年度と同程度である。

学ぶ意欲が、「たくさんある」「少しある」を含めると、自分から進んで勉強しようとする気持ち(意欲)がある児童(小5・小6)の割合は、8割を上回っており、生徒(中1・中2)は、7割程度である。昨年度と比べると、どの学年の児童生徒も同程度の割合である。また、学ぶ意欲が「ない」と答えた児童生徒の割合も、各学年とも昨年度とほぼ同程度である。

今後も、児童生徒主体の教育活動を一層充実させ、「勉強がわかる・できる」「自分が伸びた・成長できた」といった学ぶ喜びや充実感、達成感を味わうことができる指導を充実させ、学ぶ意欲をさらに高めていくことが必要である。

## 5 何のために勉強すると思いますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
① 新しい知識や考え方などを学ぶため	71.2%	74.6%	62.9%	56.5%
② 希望する職業につくなど将来の夢をかなえるため	70.9%	74.9%	82.2%	83.4%
③ 将来、世の中の役に立つため	73.2%	72.9%	66.8%	59.2%
④ よい成績をとるため	39.6%	34.1%	44.4%	46.4%
⑤ 受験に合格するため	48.7%	47.1%	65.6%	74.2%
⑥ 親や先生にほめてもらうため	7.4%	4.4%	5.4%	5.4%
⑦ 友だちに認めてもらうため	6.8%	5.0%	4.2%	3.6%
⑧ 友だちに負けないため	15.9%	12.2%	11.6%	12.3%
⑨ その他の理由のため	12.0%	11.2%	10.2%	9.6%
⑩ わからない	4.2%	4.3%	4.2%	4.1%



### ◇児童の7割以上、生徒の8割以上が、「将来の夢をかなえるため」を学ぶ意義ととらえている。

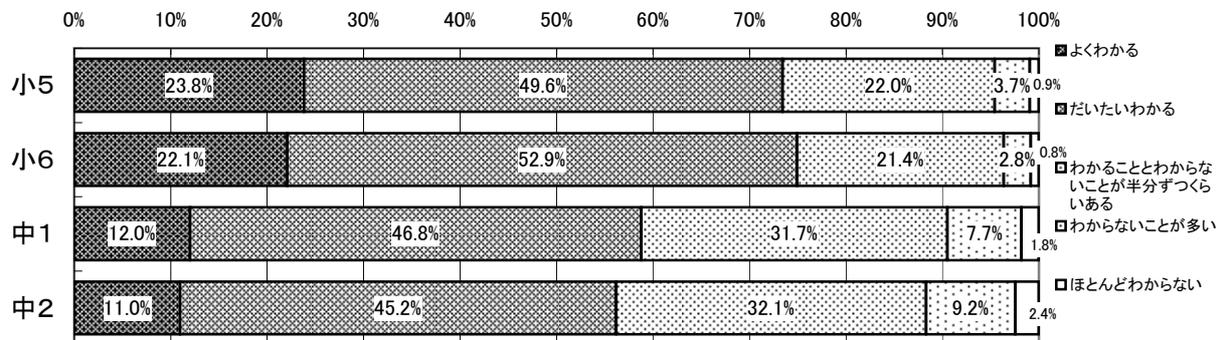
「希望する職業につくなど将来の夢をかなえるため」を選択した児童(小5・小6)は、7割を上回り、生徒(中1・中2)で8割を上回る。「受験に合格するため」を学ぶ意義としている割合は、中学生になると急激に増え、中2では7割を上回る。全体として、自己の夢や進路の実現に向けて勉強しようとする意識をもっていると考えられる。

「新しい知識や考え方などを学ぶため」「将来、世の中の役に立つため」を学ぶ意義としている児童は7割程度、生徒は6割程度であるが、学年が進むにつれて減少している。

特に、「将来、世の中の役に立つため」を選択した児童生徒が、どの学年でも3%程度減少しており、社会の形成者としての自覚を深めるような指導の充実が必要である。また、自己実現など、その他の観点からも学ぶ意義について考えることができるよう指導することが必要である。

## 6 学校の授業がどの程度わかりますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
① よくわかる	23.8%	22.1%	12.0%	11.0%
② だいたいわかる	49.6%	52.9%	46.8%	45.2%
③ わかることとわからないことが半分ずつくらいある	22.0%	21.4%	31.7%	32.1%
④ わからないことが多い	3.7%	2.8%	7.7%	9.2%
⑤ ほとんどわからない	0.9%	0.8%	1.8%	2.4%



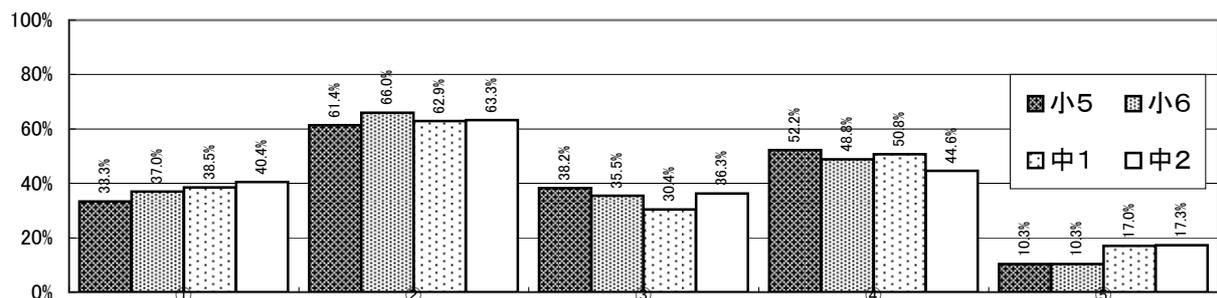
◇児童の7割以上、生徒の約6割が「授業がよくわかる」「だいたいわかる」ととらえており、昨年度より大きく増加している。

「よくわかる」「だいたいわかる」を含めると、授業がわかるととらえている児童(小5・小6)の割合は、7割以上、生徒(中1・中2)は約6割であり、昨年度に比べて、それぞれ約3～6%程度増加した。一昨年度に比べると、「よくわかる」「だいたいわかる」の割合は、全体として10%程度増加しており、特に小5では12%、中2では11%と大きく増加している。

この結果は、各教科で身に付ける力を明確にし、個々の学習状況を分析して、個に応じたきめ細かな指導を行ってきた成果があらわれてきたものと考えられる。今後は、分析に基づいた指導を継続し、「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と答えた児童生徒に対する、より一層きめ細かな指導を充実させることが必要である。また、授業がわからなくなる割合が中学校になると急増することから、特に中学1年生における丁寧な指導と個別の対応を充実させることが必要である。

## 7 授業の中でわからないことがあったら、どうすることが多いですか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
① 自分で調べる	33.3%	37.0%	38.5%	40.4%
② 友だちにたずねる	61.4%	66.0%	62.9%	63.3%
③ 先生にたずねる	38.2%	35.5%	30.4%	36.3%
④ 家の人や塾の先生にたずねる	52.2%	48.8%	50.8%	44.6%
⑤ そのままにしておく	10.3%	10.3%	17.0%	17.3%

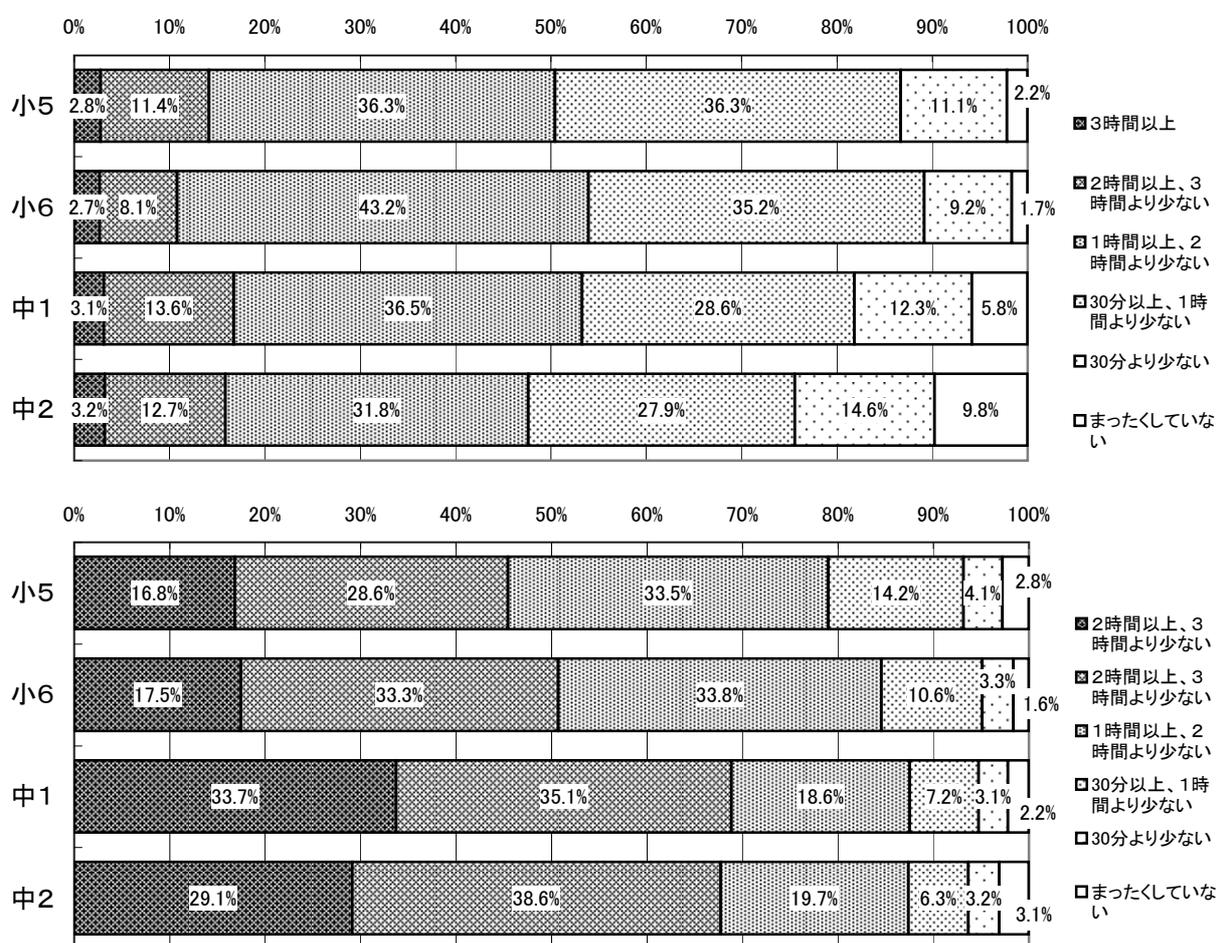


◇6割以上の児童生徒がわからないことがあったら「友だちにたずねる」。

わからないことがあったら、児童生徒の6割以上が「友だちにたずねる」と答えており、どの学年においても選択肢の中で最も大きな割合を占めている。仲間とともに学び合うこと、互いにわからないことを聞き合えることを大切に指導してきた成果であると考えられる。今後は、児童生徒が相互に信頼し支えあって生活できる好ましい人間関係が深まるよう、より一層の指導を充実させることが必要である。昨年度に比べて、「家の人や塾の先生にたずねる」と答えた児童生徒の割合が4%程度、「そのままにしておく」と答えた児童生徒の割合が1～4%程度減少している。また、「自分で調べる」と答えた児童生徒も3～6%減少している。今後は、疑問に思ったことを自ら調べ、考えるよう問題解決学習を充実させ、調べ方や学び方を身に付けさせることが重要である。また、児童生徒が気楽に「先生にたずねる」ことができるような教師との人間関係づくりや、環境づくりに配慮することが必要である。

## 8 土曜日、日曜日を除いた日で、学校の授業時間以外に、1日にどのくらい勉強しますか。

★学習塾や家庭教師を含まない	小5年	小6年	中1年	中2年
① 3時間以上	2.8%	2.7%	3.1%	3.2%
② 2時間以上、3時間より少ない	11.4%	8.1%	13.6%	12.7%
③ 1時間以上、2時間より少ない	36.3%	43.2%	36.5%	31.8%
④ 30分以上、1時間より少ない	36.3%	35.2%	28.6%	27.9%
⑤ 30分より少ない	11.1%	9.2%	12.3%	14.6%
⑥ まったくしていない	2.2%	1.7%	5.8%	9.8%
★学習塾や家庭教師を含む	小5年	小6年	中1年	中2年
① 3時間以上	16.8%	17.5%	33.7%	29.1%
② 2時間以上、3時間より少ない	28.6%	33.3%	35.1%	38.6%
③ 1時間以上、2時間より少ない	33.5%	33.8%	18.6%	19.7%
④ 30分以上、1時間より少ない	14.2%	10.6%	7.2%	6.3%
⑤ 30分より少ない	4.1%	3.3%	3.1%	3.2%
⑥ まったくしていない	2.8%	1.6%	2.2%	3.1%



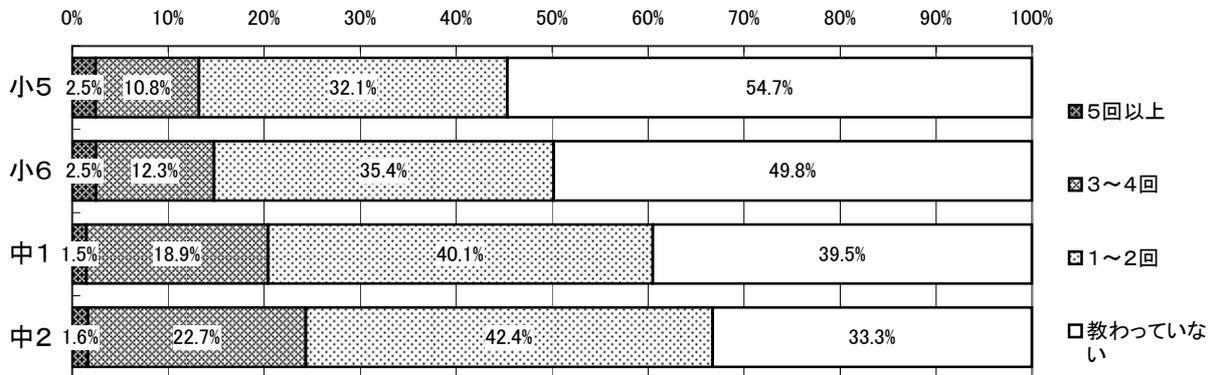
### ◇2時間以上の家庭学習をする児童生徒が増加、30分未満の家庭学習の児童生徒が減少している。

学習塾や家庭教師を含まない家庭学習時間をみると、「1時間以上」がどの学年も5割程度である。また、「2時間以上」が、小5、中1、中2で1割を超える程度であり、昨年度と同程度か増加傾向にある。小6のみ、「2時間以上」が1割程度である。家庭学習の時間が「30分以下」「まったくしていない」と答えた児童生徒は、学年によって差はあるが1割から2割程度であり、昨年度に比べすべての学年において減少していることから、家庭学習の習慣が身に付きつつあると考えられる。

今後は、学年が進むにつれて、「塾や家庭教師による学習」が増えてきている状況を踏まえつつ、家庭学習の方法などを丁寧に指導し、家庭学習の習慣化を図るとともに、家庭と協力しながら、一人一人の児童生徒への個別指導を充実させることが必要である。

9(1) 1週間のうち何回くらい学習塾や家庭教師の先生に教わっていますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
① 5回以上	2.5%	2.5%	1.5%	1.6%
② 3～4回	10.8%	12.3%	18.9%	22.7%
③ 1～2回	32.1%	35.4%	40.1%	42.4%
④ 教わっていない	54.7%	49.8%	39.5%	33.3%



◇5割の児童、6割の生徒が、学習塾や家庭教師に教わっている。

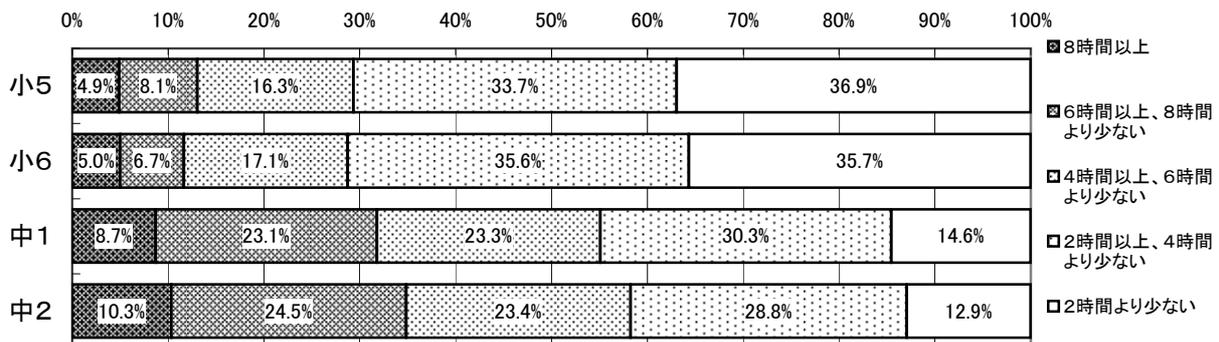
(H18新設)

1週間のうち、3回以上学習塾や家庭教師に教わっている児童(小5・小6)の割合は、1割程度である。また、生徒(中1・中2)の割合は、2割を上回っている。「教わっていない」と答えた児童生徒の割合は、学年が進むにつれて減少している。中2になると、およそ3人に2人が、学習塾や家庭教師に教わっている。

また、2日に1回は、学習塾や家庭教師に教わっているという状況を踏まえ、よりわかる授業を実践できるように努め、授業において確かな学力が身に付くよう指導することが必要である。

9(1)-1 1週間に何時間くらい教わっていますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
① 8時間以上	4.9%	5.0%	8.7%	10.3%
② 6時間以上、8時間より少ない	8.1%	6.7%	23.1%	24.5%
③ 4時間以上、6時間より少ない	16.3%	17.1%	23.3%	23.4%
④ 2時間以上、4時間より少ない	33.7%	35.6%	30.3%	28.8%
⑤ 2時間より少ない	36.9%	35.7%	14.6%	12.9%



◇1週間に6時間以上、学習塾や家庭教師に教わっている児童は1割、生徒は3割程度である。

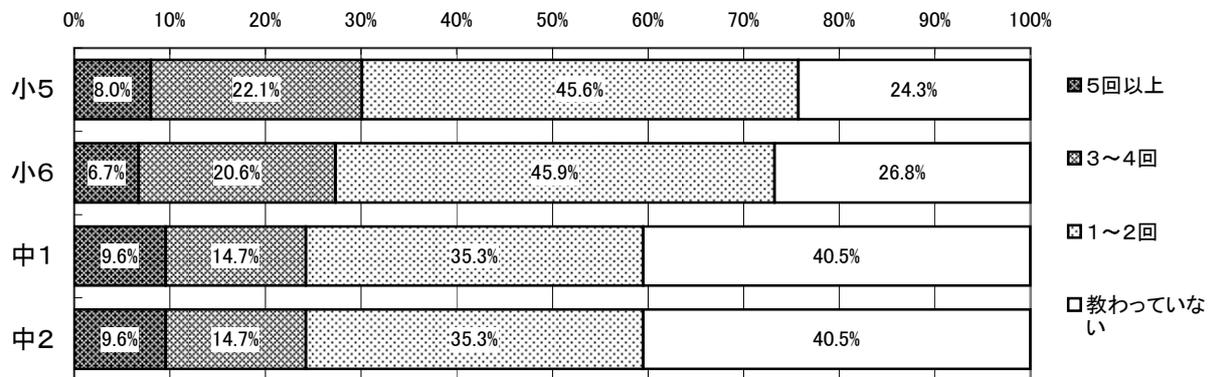
(H18新設)

1週間のうち6時間以上、学習塾や家庭教師に教わっている児童生徒の割合は、1割程度である。4時間以上教わっている児童(小5・小6)の割合は、約3割、生徒(中1・中2)の割合は、5割を上回っている。また、2時間以上教わっている児童の割合は、6割を上回り、生徒の割合は、8割を上回っている。

児童生徒の家庭学習に占める「学習塾や家庭教師による指導」の時間は、学年が進むにつれて多くなっていることから、自主的な学習が減少したり、家庭での生活習慣が不規則になったりしないよう、自ら計画を立てて学習する力を高めていく必要がある。

9(2) 1週間のうち何回くらい音楽やスポーツなどを習っていますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
① 5回以上	8.0%	6.7%	9.6%	9.6%
② 3～4回	22.1%	20.6%	14.7%	14.7%
③ 1～2回	45.6%	45.9%	35.3%	35.3%
④ 教わっていない	24.3%	26.8%	40.5%	40.5%



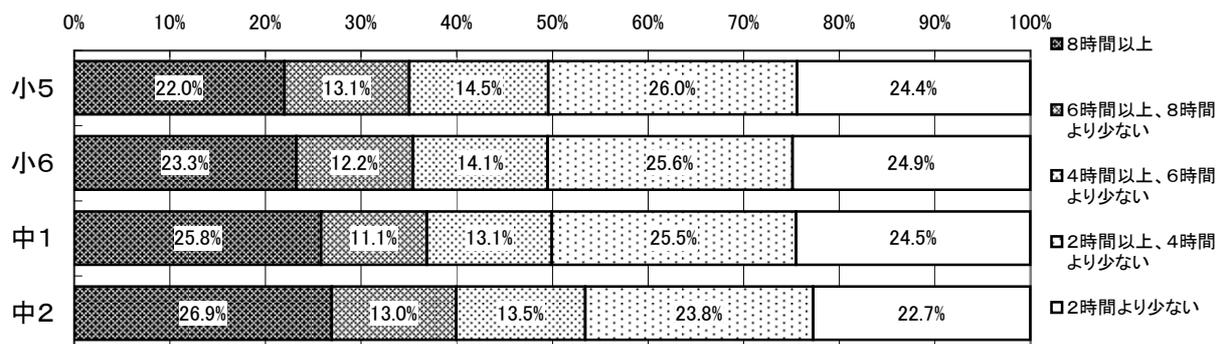
◇7割以上の児童、6割の生徒が、音楽やスポーツなどを習っている。

(H18新設)

1週間のうち5回以上、音楽やスポーツを習っている児童生徒の割合は、1割未満である。1週間のうち3回以上習っている児童生徒の割合は、児童(小5・小6)で7割を上回り、生徒(中1・中2)の割合は、6割程度である。「習っていない」と答えた児童生徒の割合は、学年が進むにつれて増え、中学生になると、急激に増加している。この結果は、学年が進むにつれて、音楽やスポーツなどの習いごとから、塾や家庭教師の先生に教わるが増えてきたことによるものと考えられる。

9(2)-1 1週間に何時間くらい教わっていますか。

	小5年	小6年	中1年	中2年
① 8時間以上	22.0%	23.3%	25.8%	26.9%
② 6時間以上、8時間より少ない	13.1%	12.2%	11.1%	13.0%
③ 4時間以上、6時間より少ない	14.5%	14.1%	13.1%	13.5%
④ 2時間以上、4時間より少ない	26.0%	25.6%	25.5%	23.8%
⑤ 2時間より少ない	24.4%	24.9%	24.5%	22.7%



◇1週間に6時間以上、音楽やスポーツを習っている児童生徒は3割を上回っている。

(H18新設)

1週間のうち6時間以上、音楽やスポーツを習っている児童生徒の割合は、3割を上回っている。また、4時間以上習っている児童生徒の割合は、5割程度である。また、2時間以上教わっている児童生徒の割合は、7割を上回っている。

設問9をみると、小学生、中学生ともに、塾や家庭教師に習うことや、音楽やスポーツなどの習い事などに、多くの日数や時間を費やしており、児童生徒が多忙な生活を送っていることがうかがえる。